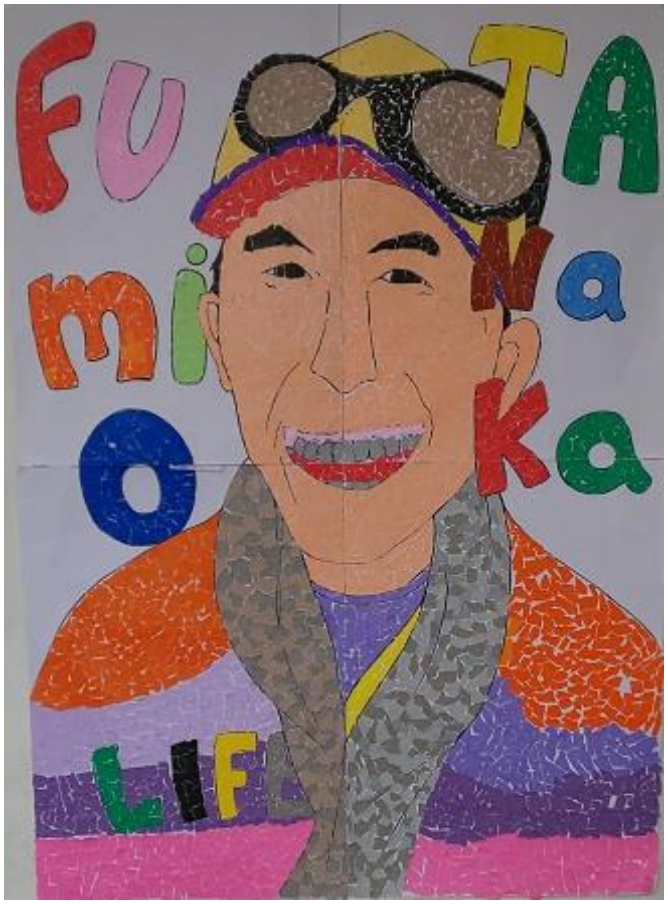
【KSKQ】 2021年7月号 No.214

あいえるらくがき帳



コロナ禍により自宅待機が続く中、ライフ・ネットワーク通所者の一人、片山さんが、貼り絵の大作を作ってくれました。

描かれているのは、一昨年亡くなられた利用者、田中冨美男さん。

どのような思いでこの貼り絵を作られたのか、片山さんに話を伺いました。インタビュー内容は法人 HP からご覧ください。

もくじ

○ヘルパーと空き缶と木登り（障害者のついーと）
——当事者スタッフのコラムです
○支援の原点～社会と障害者を繋ぐ架け橋に～（支援？介助？）
——初任者職員に実施した研修の中身について報告します
○グループホームのヘルパー利用と夜間支援
（制度のア・レ・コ・レ）
——グループホームのヘルパー利用について解説します

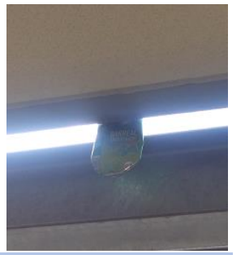
https://aiel.or.jp

あいえる協会
公式サイトはこちら

障害者のついーと

ヘルパーと空き缶と木登り

コロナ禍で緊急事態宣言が発令されていたゴールデンウイークの朝、ベランダで突然ガラガラガラ……ドッシャーン！という大きな音がしました。ベランダを覗いてみると、上階のどこからか、ビニール袋に入れられた空き缶の袋が何個か転がってきていました。そのうちの一個が、ベランダの落下防止ネットの軒先に、まるで干し柿でも吊るしているかのように、ぶら下がっていたのです。虫でも湧いたら困ると思い、ヘルパーさんに取って欲しいと頼みました。でも取れなかったので、自治会長さんにお願いすると、すぐにハサミを持った男性が来て取ってくださいました。



これで一安心していたのですが、翌日念のためヘルパーさんに確認してもらうと、「まだネットの上にありますよ！」と言われました。また自治会長に頼まなあかんのかな？！と悩みながら、ヘルパーさんに取って欲しいと伝えました。そのヘルパーさんも何とか取ろうと努力してくれたのですが、「ネットの上に登らないと無理ですよ！私は登れないです！」と言われました。

ヘルパーさんと２人で悩んでいると、交代のヘルパーさんが来ました。事情を話すと「私木登り得意やねん！」と言って、塀に上って取ってもらえました。でも、何か事故があってはいけないので、止めた方が良かったのか？！と、少し考えてしまいました。

日々何があるかわからない地域での自立生活ですが、この様な事は生活のあらゆる場面で起こると思うし、この様な日常のトラブルが自立生活の醍醐味であり、入所施設生活では味わえない楽しみだと私は思っています。ヘルパーさんとの関係も、お互いに得意な事を生かせる関係作りが大切だと思います。地域でのヘルパーさんと利用者との関係は、色々課題があります。今後、両者が納得できるルール作りは一定必要だと思います。しかし、障害者の単なる手足になるだけではなく、色々なヘルパー派遣事業所の売りメニューや、そこから一歩出たヘルパーさんと障害者の人間関係作りが、今後は求められてくるのではないでしょうか？障害者の、より良い、その人らしい地域自立生活を続けていくために！！

（文責：みっちゃん）

支援？介助？

支援の原点～社会と障害者を繋ぐ架け橋に～

制度のない時代から活動をされ、現在はピア・エンジンの障害者スタッフである岸田さん。支援をするにあたり、目の前のその人を知ることはもちろん、その人がどんな環境にいたのか、どんな思いをして過ごしてきたのか…そのことを知る大切さを、法人の初任者職員を対象に、以下４つのポイントで話をしていただきました。

①植え付けたられた障害者観

幼少期の差別体験によって「自分は障害者」「この社会にとって邪魔、あってはならない存在」と認識させられる。

②優生思想の問題

障害者運動に関わっていく原動力になる女性重度障害者との出会い。相模原重度障害者殺傷事件から見えた優生思想と感じ続けている恐怖。

③障害者と地域との関係(地域とのつながりの大切さ)

近所のおばあちゃんの一言で人生が変わった！

④障害はその人の個性

「人と違うことこそバンザイ！」障害のプラス面に目を向ける大切さ。

最後に、岸田さんから支援者へ伝えたい想いをうかがいました。

「“その人がいないと成り立たない”という支援者になってしまうと、障害者の生活の幅が狭まってしまいます。問題があることに気づき、周りに発信できる支援者になってもらいたい。支援者は、社会と障害者の架け橋になってほしい。支援者も社会を変えていく大事な一員です」

当法人の生き字引とも言える岸田さんのお話は、色んな経験を重ねてきた本人の思いのこもった、中身の濃い話となりました！

岸田さんは、「You Tuber になってチャンネル登録者を増やしたい！」「もう一度海外旅行に行きたい！」などやりたいことは尽きません。障害者の「やりたい！」「行きたい！」を一緒にたくさん見つけて、社会と障害者が繋がる支援を目指していきます。

これからも、障害者の方から直接想いを聞けるような機会を設けていきます。

(文責：W 小林)

制度のア・レ・コ・レ

グループホームのヘルパー利用と夜間支援

皆さんは障がい者のグループホームでは、どのような生活をされているかご存じですか？　「世話人さんや生活支援員さんがご飯を作ってくれて、入浴などのサポートをしてくれる。」というのがいちばん思い浮かぶでしょうが、それだけではありません。障がいが重度である等の要件を満たす場合、ヘルパーさんにも生活サポートをしてもらうことができます。

これは常時見守りや個別の対応が必要なため、世話人・生活支援員だけでは、本人の生活を十分に支えるのが難しい方への制度となっています。ただし、現状は令和６年３月末までの経過措置となっています。

お風呂を自分で入ることが難しく介助が必要、トイレに介助が必要、外出は１対１で対応が必要な場合等といった、常時見守りや支援が必要な重度障がい者には重要な制度です。

また、グループホームでは夜間支援員という夜間対応をつけているところが多くあります。この夜間支援員は、入居者の状況に応じて就寝準備の確認、寝返りや排せつの支援等の他、緊急時の対応も行うことができますので、夜間に対応が必要な方でも安心して生活することができます。

ただし、それぞれのグループホームにおいて、個別ヘルパーを利用できるかどうか、また夜間対応の種類も異なる場合があるので必ず確認しておく方がよいです。（※参考）

グループホームでの生活に興味のある方は、各区役所窓口または障がい者基幹相談支援センターに相談してみて、興味のあるホームの見学をされてはいかがでしょうか。

※参考

①夜間支援体制Ⅰ…夜勤を行う専従の夜間従業者が配置されています。

②夜間支援体制Ⅱ…宿直を行う夜間従事者が配置されています。

③夜間支援体制Ⅲ…夜間に利用者の呼び出しに対応できる連絡体制の確保がされている場合か、警備会社と委託契約を締結しています。

（文責：天満）

お知らせコーナー

みんなのぬくぬく ～交流スペース～

■次回ぬくぬくスケジュール■

新型コロナウィルス感染拡大防止のため休止中です。新しい生活様式での開催を目指しています！

★ヘルパーさん大募集★

時給：1280 円～

勤務地：住吉区・西成区の一部

勤務日：週１日～OK!※応相談！

連絡先：ヘルプセンター・ホップ
住吉区長居１－３－１９和光第３ビル３F
TEL:０６－６６９４－５１４６

ホップの
ブログ記事はこちら

男性・女性・学生の方・主婦(夫)の方・未経験者大歓迎です！

お気軽にお問い合わせください！

住吉区地域自立支援協議会

■障害者の暮らし何でも相談■

日程：７月２８日(水)　１１時～１４時

場所：住吉区役所

＊コロナ流行のため、実施に関しては HP からご確認ください

住吉区地域自立支援協議会 HP

編集人

社会福祉法人あいえる協会ライフ・ネットワーク（生活介護事業所）
〒558-0004　大阪市住吉区長居東 3-8-25　ふぁみーゆ長居Ⅱ１F
ＴＥＬ：06-6607-8260　　ＦＡＸ：06-6607-5503

郵便振替口座　00960-5-137458　年間購読料 600 円（定価 100 円）

社会福祉法人あいえる協会

法人本部
ヘルプセンター・ホップ
自立生活センター・まいど
グループホーム・あいえる
グループホームほんわか
ウィル
ライフ・ネットワーク
ピア・エンジン（分所）